

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 光州事件の首謀者を記事から抜き出しましょう。

2 市民の日常生活が突然奪われる様子を本文中から1文で抜き出し最初の3文字を書きましょう。

3 尹前大統領が非常戒厳を宣言した時、市民が抗議し軍の一部が命令に従わなかった理由を、本文中から1文で抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

4 光州事件を描いた「少年が来る」などの小説で、2024年ノーベル文学賞を受賞した作家の名前を書きましょう。

「権力の暴走に抵抗」記憶脈々

韓国・光州事件45年

韓国南西部・光州で1980年5月、戒厳令下で民主化を求める市民を軍が武力で弾圧し、160人以上が亡くなった「光州事件」から45年となった。仲間を失ったり、軍の拷問を受けたりした人たちは今も心身の不調を抱える。昨年末には、尹錫悦前大統領が「非常戒厳」を一時宣言。衝撃を受けた光州事件の関係者らは、権力の暴走に抵抗した市民らの思いが継承されることを願う。

80年5月18日、学生らの民主化運動が激しさを増していた光州で、軍はデモの鎮圧を開始した。「軍人がバスに乗っていた若者らを理由もなく捕まえ、男も女も下着姿にして軍用トラックへ乗せていった」。当時工員だった尹清子



光州事件 韓国南西部・光州で1980年5

月、民主化を求める市民らを軍が虐殺した事件。5月18日に始まり、同27日に完全鎮圧した。韓国では「5・18」と言われる。市民の死者は160人以上確認され、行方不明の人も多い。軍人による性暴力も近年になって判明した。鎮圧を首謀した全斗煥(チョン・ドゥファン)元大統領は退任後に反乱・内乱罪などで無期懲役が確定したが、その後、恩赦となり、2021年、謝罪しないまま死去した。(光州共同)

今年の戒厳令、多くの市民抗議



さん(66)は、当時の様子をこう証言する。尹さんはその後、犠牲者の葬儀の準備や、軍に抵抗する市民のための炊き出しに携わった。軍はやがて市民に向けて銃撃を始め、一部の市民は警察署から武器を奪って抵抗した。

喫茶店で働いていた廉東有さん(67)は「毎日市民が殺されていく憤り」から、市民側が拠点とした全羅南道庁舎を守る「機動打撃隊」に参加。同27日の軍による最終鎮圧作戦で仲間が銃殺され、自身も捕まり激しい拷問を受けた。後遺症の激痛を和らげる湿布を今

も手放せない。当時の光州を知る人たちは、昨年末の尹前大統領の戒厳令を「あつてはならないことが起きた」と振り返る。尹清子さんはショックでけいれんを起こし、救急搬送されたという。報道統制が敷かれた中、近隣都市で事件の実態を伝えるビラを配布したとして、約1年間拘束された李康熙さん(63)は拘束や拷問の後遺症のパニック障害や不眠が悪化した。

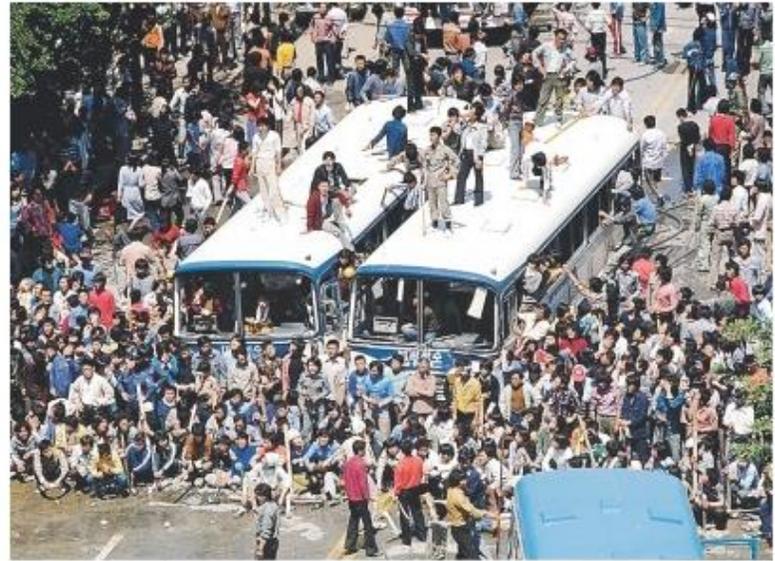
尹前大統領の戒厳令宣言時、国会前では多くの市民が抗議の声を上げたほか、一部の軍人は命令に従わなかった。光州事件の際、命を懸けて軍の暴挙に抵抗した市民の記憶が脈々と受け継がれていることが背景にあるとみられている。

一方、一部の保守層は、光州の市民は北朝鮮の特殊軍に扇動された「などと市民らをおとしめる偽情報を流布させてきた。

与野党は近年、光州事件での市民の抵抗と民主化への献身について、憲法前文への明記を検討している。機動打撃隊同志会の梁奇南会長(65)は「憲法への明記により歴史の歪曲を正してほしい」と語った。

(光州共同)

1980年5月21日、韓国・光州でデモに参加する市民ら(イチャンソン撮影、5・18記念財団提供)共同



NIEワークシートのこたえ（2025年5月23日公開）

◆ワークシート「光州事件(社会)」 2025.5.22付 夕刊 5面 解答

- 1 全斗煥(チョン・ドゥファン)元大統領
- 2 軍人が
- 3 光州事
- 4 ハン・ガン（韓江）